

府中市健康地域づくり審議会
第1回熟年元気づくり分科会 報告書

- 1 日 時：平成24年11月19日（月）14時から15時30分
- 2 場 所：市役所4階第二委員会室
- 3 出席者：中野悦成（分科会会長） 原田弘子（分科会副会長）
宮口英昭（分科会委員） 重森由枝（分科会委員）
前原裕吉（分科会委員） 藤本命壮（分科会委員）
佐藤真二（分科会委員）

4 欠席者：なし

5 概要

- (1) 開 会
- (2) 審議会事務局長あいさつ
市民生活部長あいさつ
- (3) 分科会長あいさつ
中野悦成分科会長あいさつ
- (4) 委員委嘱
委嘱状の配付並びに委員及び事務局員の自己紹介を行った。
- (5) 議事

① 指示事項及び関連資料の説明

- ア 府中市健康地域づくり審議会体制の説明
- イ 府中市健康地域づくり審議会関係分科会体制の説明
- ウ 府中市健康地域づくり審議会体制の見直しについて（提言）の説明
- エ 熟年元気づくり分科会への指示事項についての説明

「健康な65歳から活発な88歳（米寿）を目指して」という基本理念の実現ため、生きがいを持った65歳以上の「元気高齢者」の割合を高めていく効果的な施策などについて協議し、今後10年程度の間市が重点的に取り組まなければならない方向性をまとめ、府中市健康地域づくり審議会への報告を求める。

なお、方向性の策定に当たっては、他世代・同世代を支援するマンパワーの確保の視点を持ち、特に高齢者の社会参加と生きがいづくり、高齢者の働く機会づくり、健康づくりの推進などの検討を求める。

政策指標：生きがいを持って暮らす元気高齢者の増加と要介護期間の短縮
オ 熟年元気づくり分科会の資料説明

「熟年世代はいきがいを持っているか?～アンケートから見えてくるもの～」を中心に、いきがいの有無や、いつまで働きたいと思っているかなどのデータを説明した。

また、先進取り組み事例を紹介し、今後、高齢者がいきがいを持つにはどのような政策を打ち出せばよいかを中心に、議論を行う方向性について説明した。

② 質疑・意見交換

【主な質疑、意見】

- 町内会活動に乗ってこない人が多い、インフラの問題はしきりに出るが。市民に火をつける施策が必要なのではないか。
- 肝心なのは高齢者を家に閉じ込めないこと。要は仕掛けをやる。経費のかからない事業。高齢者は場を提供してほしい、誰かに旗を振ってほしい。
- 最近企業の雇用がなくなってきた。
- シルバー人材センターに60代が入らない。シルバーという名前がだめなのでは。
- タクシーは65歳定年だが、希望者は70歳まで働ける。
- いかに仕掛けをつくるかが大事。生きがいも多様化している。いかに社会へ押し出すか。きょう一日何もすることがない、そういった人たちをいかに支えるかが大事。社協ではシルバーの小型版を今準備している。今度助っ人屋、ワンコインで使える支え合いネットを始める。シルバーは道具が必要だけど、家の中のちょっとした片付けとか。1時間ワンコインで2時間上限。協力員を募集中で、100名くらい集めたい。
- 犯罪白書なんかを見てみると、最近高齢者の万引きが増えている。孤立化している人が多い。
- 最近子どもも歩いていない。老人が歩くまちが一番いい。出るということが大事だと思う。
- 最近はいきいきサロンへの男性の参加が少ない。
- 最近の高齢者は若い人以上に我慢している。ストレスがたまっているのではけ口が必要。気の抜ける場、行事を市として提供していただきたい。
- どうしたら町内会へ入ってもらえるか。敬老会への参加が対象者の2割から3割。参加率を上げていく努力が必要。
- 行事に参加するシステムができていない。ボランティアの登録制度があれば出てくれる人はいると思う。何かやった後にみんなで話をしたりする会が続く。

- 今後は子どもとのタイアップを考えなければ。学校で昔のものづくりとして高齢者を講師派遣すれば張り切って出向いていく。
- 家に引きこもった人をどう引っ張り出すかが今後の検討課題。どうしても出ていけない人には社会的支援を。家に引きこもった人をどう引っ張り出すか。ラジオ体操、シルバー人材センター、社協の支え合いネットも一例、お酒を飲む会、ボランティアの登録制度などが今日の議論では出された。
- 今すぐできることとそうでないことを。検討の枠組みが提示されないと、議論のやり方によっては漏れが出てしまう。コスト効果が必要であろうし、優先順位が難しい。アンケート中29人が生きがいがないと答えている。アイデアをどこまでつなげていくか、なんでスポーツに出てこないのか検討が必要。背中を押してあげるにはどうしたらいいか。生涯学習・スポーツをしない人を引き出すためにはどうしたらいいか。